

2019年度 地域文化演習・地域文化調査法・地域調査入門・地域環境演習・地域環境調査法のテーマ・内容・調査地域一覧（2019年3月12日現在）

地域文化演習（3年選択必修）

教員名	記号	テーマ	演習内容等	曜・時限
土谷敏治	B	地方都市における交通の課題と展望	交通を中心に、都市や人口の問題を考える。交通・流通・都市・人口等に関する文献の講読を通じて、調査計画の立て方、実際の調査・研究の方法、結果の分析方法、論文の書き方などを学習する。その成果を踏まえて、各自のテーマに従い、調査計画の立案し、現地調査を行う。最終的には、調査報告書を作成のする予定である。10月中旬に、茨城県鹿嶋市、大洗町、ひたちなか市と周辺地域で、現地調査の実習を予定している。	火・5

地域文化調査法（3年選択必修）

教員名	記号	テーマ	調査地域	調査期間	調査内容等	曜・時限
小田匡保	A	坂井市の人文地理（農業・商業・観光など）	福井県坂井市三国町	10月（3泊4日）	坂井市に関する統計の分析、地図の読み取り、文献の講読の後、グループで調査テーマを決めて、現地調査（聞き取り・観察など）を行う。現地調査後は報告書を作成する。	水・5
橋詰直道	B	地方都市の自立と地域振興	地方都市（候補地例）佐賀県唐津市又は伊万里市とその周辺	6月22日～25日又は10月12日～15日（3泊4日）	地方都市を事例に、都市の歴史や地場産業、まちづくりと地域振興について学ぶ。例えば地場産業と観光、商店街とまちづくりなどの班に分けて現地調査し、報告書としてまとめる。6月末の現地調査の場合、6月までは調査地に関わる文献調査と文献レビュー発表、現地調査期間中は毎夜レポート、終了後まとめレポート提出と発表、その後は調査結果を集約・地図化・分析し報告書用の原稿づくり（6回以上書き直しとなる）。12月報告書完成と班別発表を行う。この他に東京日帰り巡検も行うので、積極的に参加する者に限る。	火・4
佐藤哲夫	C	建築と景観	那覇市	6/29～7/3又は10/30～11/3	沖縄の建築の特徴と那覇市の景観計画について学んだ上で、那覇市内の特定の街区の街並みについて調査を行い、レポートをまとめる。赤瓦やシーサーなど、定番の建築要素はテーマの対象外。	水・2
須山 聡	D	限界集落で住み続けるための集落点検	奄美大島宇検村須古・屋鈍集落	6月27日（木）～7月3日（水）	地域の観察・調査・分析手法を修得する実践的な手法として、人口100人を切る限界集落で居住継続を可能とする地域的条件を、住民協働のワークショップで模索し、生活環境を改善したり、交流人口を増大させる方策を提案し、実行のためのプランを提示する。	水・3

地域調査入門（2, 3, 4年選択）両専攻共通

教員名	記号	テーマ	調査地域	調査期間	調査内容等	曜・時限
小野映介	A	完新世における人と自然の関係	青森県・小川原湖周辺	6月下旬に2泊3日	小川原湖周辺には、縄文時代の貝塚が点在する。貝塚の形成と後氷期の自然環境の変遷過程の解明を通じて、人と自然の関係を考察する。なお、現地調査には三沢市が実施中の遺跡発掘調査現場の見学を含む。	前期金・4
須山 聡	B	豊年祭の参与観察	奄美大島宇検村久志集落	8月9日（金）～12日（月）	地域の観察と実態把握の基礎的技法を修得するため、南西諸島で広く執り行われる集落行事である、豊年祭の参与観察を実施する。単に見学するだけでなく、豊年祭の準備・運営に参加し、身体的経験を通じて豊年祭を理解する。対象集落は人口が50人を下回る小集落で、住民の力のみでは祭の開催自体が危ぶまれる。そのような限界集落の具体的な支援の意味もある。	後期金・4
平井幸弘	E	ジオパークにおける自然地理学の視点	北海道胆振地域の洞爺湖・有珠山	10月中・下旬に2泊3日	世界ジオパーク認定地である洞爺湖・有珠山を中心に、特徴的な火山地形や過去の災害、現在の防災、地域資源を活かしたツーリズムなどに関して、関係機関・団体・個人を訪ね、さらに地形や土地利用調査、景観観察などを実施する。	後期火・4
田中 靖	F	身近な自然	関東地域	週末（土曜日）に複数回	自然地理学の現地調査ではどのような視点で景観を観察しているのかを学ぶ、入門編の調査実習。授業時間を利用して事前学習（データ分析・地図作成など）、週末（主に土曜日）に巡検を行う。	前期火・4

地域環境演習（3年選択必修）

教員名	記号	テーマ	演習内容等	曜・時限
鈴木秀和	B	ジオパークとそれを活用した地域振興	日本各地のジオパークを題材に取り上げながら、地形地質、水文（湧水・温泉）、植生などの自然環境の成り立ちとともに、それらを活用した教育活動、地域振興策などについて文献講読を中心に学習する。また、関東近郊のジオパーク（浅間山北麓、伊豆半島・箱根）へ実際に訪れ、設定したテーマに基づき現地調査を実施する予定である。授業では毎回担当を決め、論文紹介や質問などをしてもらいます。	水・2

地域環境調査法（3年選択必修）

教員名	記号	テーマ	調査地域	調査期間	調査内容等	曜・時限
江口 卓	A	屋久島の気候と環境	鹿児島県屋久島	10月中・下旬	1年を通して、屋久島の気候変動をテーマに、データの解析を行う。現地調査では、屋久島の自然環境の地域性と世界遺産としての環境問題をテーマとして調査・解析を行う。	水・4
鈴木重雄	C	白馬村の自然環境と人々の暮らし	長野県白馬村周辺	10月上旬の3泊4日	長野県北部の白馬村においてブナ林からハイマツ林にかけての植生、山麓のスキー場や扇状地上の利用などを観察し、各自、調査テーマを決め、現地調査を実施する。現地調査前の授業では、対象地域や調査方法に関する文献の講読を行い、調査計画を立案する。現地調査後は、調査結果をまとめ、報告書の原稿の作成を行う。	火・4
田中 靖	D	2016年熊本地震	熊本・阿蘇地域	10月中旬に3泊4日の予定	2016年に発生した地震と地震被害などについて、自然地理学的な視点からの検証を行う。班別にテーマを決めての調査実習が中心。取り扱う内容は、①活断層と地震、②平野の地形分類と液状化、③崩壊による地形変化、④地震被害からの復興、⑤火山地形、など。	月・3
平井幸弘	E	河川下流・湖沼域の環境問題とワイズユース	島根県出雲平野	10月初・中旬に3泊4日	斐伊川および宍道湖・神西湖をめぐる災害や環境問題、自然の保全・再生、地域資源のワイズユースなどに関して、地形・水文調査、景観調査、また関係機関、団体、個人を対象に聞き取り調査や質問票調査を実施する。	水・4
小野映介	F	自然環境と土地利用の関係	新潟県・越後平野	10月に3泊4日	越後平野を対象として、先史時代から現在にかけての土地利用変遷について考える。越後平野の浅層地質・微地形と遺跡立地の関係、信濃川の河口港を起源とする新潟の町の成り立ち、沖積低地における新興住宅街の開発と自然災害リスク、砂丘地におけるワイナリー経営などについて、自然地理学的観点から調査する。	水・4

* 演習と調査法、地域調査入門と演習または調査法を履修することも可能です。履修希望者が多い場合は、人数を調整することがあります。